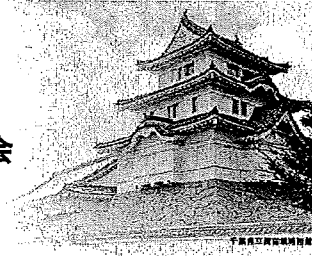


小学校における学級担任業務の支援の取組 ～学級事務支援員の配置を通して～

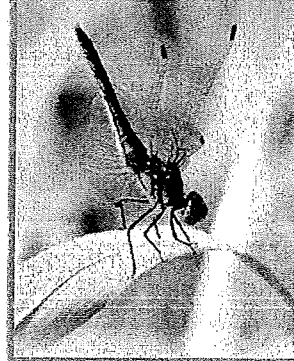
野田市教育委員会



本日の説明内容

- 野田市の概況
- 実践研究のねらい
- 実践研究の実施状況
- 実践研究の成果
- 今後の取組予定
- その他

一人のつながりがまちを変える～
みんなでつくる学びと笑顔あふれる
コウノトリも住めるまち



野田市の概況



人口

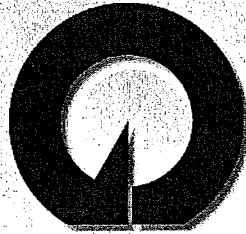
154,731人
(H29.9.1現在)

学校数

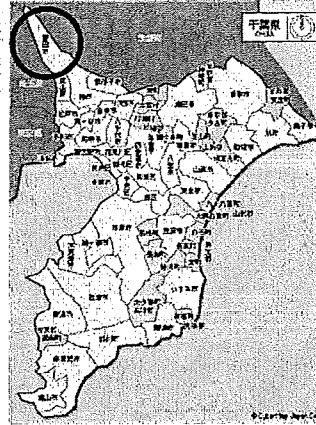
小学校; 20校
中学校; 11校

地域性

- ・ 東を利根川、西を江戸川、南を利根運河によって、三方を河川に囲まれている。
- ・ 古くから「醤油の町」として発展してきた歴史がある。



「の」を図案化
親睦
融和
団結



特色ある取組（教育環境の整備）



年度

26

土曜授業

22

ボトムアップ研修

20

学校地域支援本部

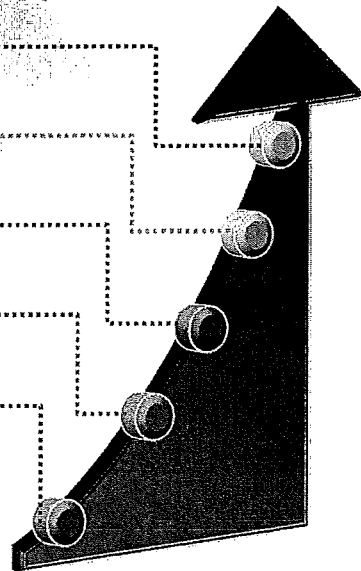
18

2学期制

14

サタデースクール

平成29年度の土曜授業 年間14回



業務改善の取組



チーム学校の取組

・サポートティーチャー ・要配慮児童生徒支援員 ・音楽非常勤講師



多忙化解消月間の取組

・7月と12月に実施



夏季休業中に連続10日間の閉庁日

・研修や出張を設定しない。総務準備期間



勤務時間の調査

・出退勤ソフトの取付



校務支援システムの導入



部活動ガイドラインの作成

実践研究のねらい

もっと
子ども達と
関わりたい！

多忙感！
仕事量が多い！

研修時間が
もっとほしい！

取組

- 学級事務支援に特化した人材の配置（全小学校）
- 業務改善につながるマネジメント（管理職意識改革）

ねらい

- ①学級担任の事務内容と量の明確化と負担感の軽減
- ②子ども達と向き合う時間や教材研究の時間の確保
- ③時間外勤務の縮減
- ④業務改善に関する意識（時間管理）の向上

業務改善ポリシー

小学校学級担任の業務の在り方

- ・学級担任の事務内容と量を調査し、削減できる事務内容と量を明らかにする。

教員の多忙化解消

- ・学級事務に対する負担感については80%以上の担任が「学級事務が減った」と感じるようにする。
- ・時間外勤務の縮減を図り、時間外勤務月80時間以上の勤務者を昨年度比10%減らす。

教員の指導力向上

- ・子どもと向き合う時間の確保に努め、昨年度に比べてどのくらい増えたか明らかにする。
- ・教材研究の時間の確保に努め、昨年度に比べてどのくらい増えたか明らかにする。

業務改善に関する意識（時間管理）の向上

- ・意識調査において、80%以上の担任が「勤務時間を意識できた」と感じるようにする。

(1) 学級事務支援員の配置

- ・全小学校(20校)配置(各1名ずつ)
- ・2～6時間の勤務時間(各学校の規模による)

(2) 学級事務支援員の仕事内容

- ・教材づくりの補助や授業準備に関すること
- ・各種資料や学年通信等の印刷や配付をすること
- ・小テスト等の簡易な丸付け作業等に関すること
- ・学級費等の集金業務補助に関すること
- ・その他、学校長が認めた簡易な作業等(掲示等)

実践研究の実施状況

(3) 第1回業務改善協力者会議

・学識経験者、校長会代表、教頭会代表、教務主任部会代表、教諭代表、保護者代表、事務部会代表で構成。

(4) 校長会・教頭会の研修

(5) 先進校視察

・全ての担任と学級事務支援員にアンケート調査を実施。(前期・後期の合間に実施)

(6) アンケート調査

(7) 学級担任の事務量調査

・教頭会が学級事務支援員の効果的な活用をねらい、独自項目でアンケートを実施。教頭会研修部で内容を整理し、次の教頭会で今後の在り方を発表した。

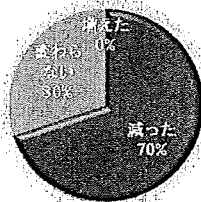
(8) その他

・教頭会による独自アンケート調査 等

実践研究の成果

(1) 学級事務支援員導入に関する成果

担任の事務量



■減った ■変わらない ■増えた

学校規模による有効感の違い

小規模ほど効果大

大規模ほど効果大

・簡易な丸付け
・集金業務

・資料印刷
・教材作成

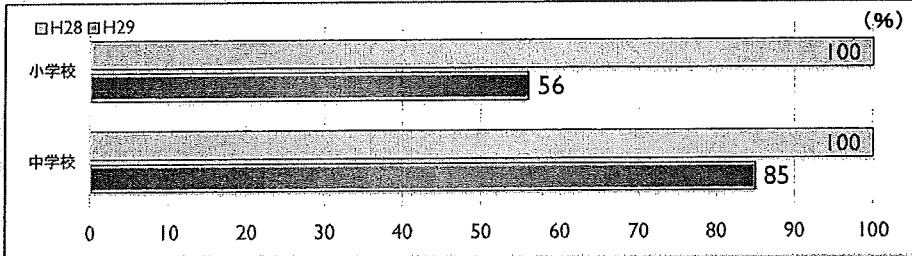
効果があった依頼内容の上位

・資料印刷	54%
・簡易な丸つけ	15%
・出席簿	10%
・集金業務	8%

- ・学級数により依頼内容が変容する。
- ・規模が大きくなるほど、学年共通のものを依頼することが多くなる。
- ・規模が小さくなるほど、1つの仕事にかかる時間が多いものを依頼することが多くなる。

実践研究の成果

(2) 時間外勤務80時間以上の状況



(3) 指導力向上に関わる効果1

- ①子どもと向き合う時間の確保
- 増えた 50%
 - 変わらない 50%
 - 減った 0%

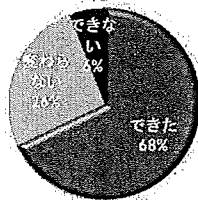
(3) 指導力向上に関わる効果2

- ②教材研究の時間の確保
- 増えた 47%
 - 変わらない 52%
 - 減った 1%

実践研究の成果

(4) 業務改善への意識

勤務時間の意識



■できた ■わからない ■できない

肯定的回答の上位代表例

- ・仕事の効率化を意識した。
- ・仕事の優先順位を付けるようになった。
- ・意識改革の必要性を感じた。
- ・学校全体の取組として意識している。

見えてきた新たな課題

- ・「変わらない」「できない」の内容は、若年層とベテラン層の大きな違いが見られた。世代層にあった対策・取組が必要となる。

若年層（経験10年未満）

- ・効率よく仕事を進めることができない。
- ・何を依頼すればよいか分からない。

仕事の進め方を含めた若年層研修の充実

ベテラン層（経験20年以上）

- ・自分でやるべき。自分でしたい、見たい。
- ・仕事はいくらでもある。

時間対効果等、更なる意識改革の推進

社会のステレオタイプな教師像も一因
(例えば保護者から) もっと宿題を もっとOOLして もっと...

今後の取組予定

(1) 第2回業務改善協力者会議の開催

(2) 追跡調査のための再アンケート

(3) 業務改善研修会

(4) 研究冊子の作成と配付

その他

中学校への配置

意識改革の進め

■教育長の言葉

■校長会、教頭会の取組

⇒ マネジメントの姿勢

⇒ 実態把握

■モラールアップ委員会

ご清聴有り難うございました

コウノトリが舞う、歴史と文化が彩る野田市へ
是非、お越し下さい！

